



当サイトはこちらからご覧になれます。

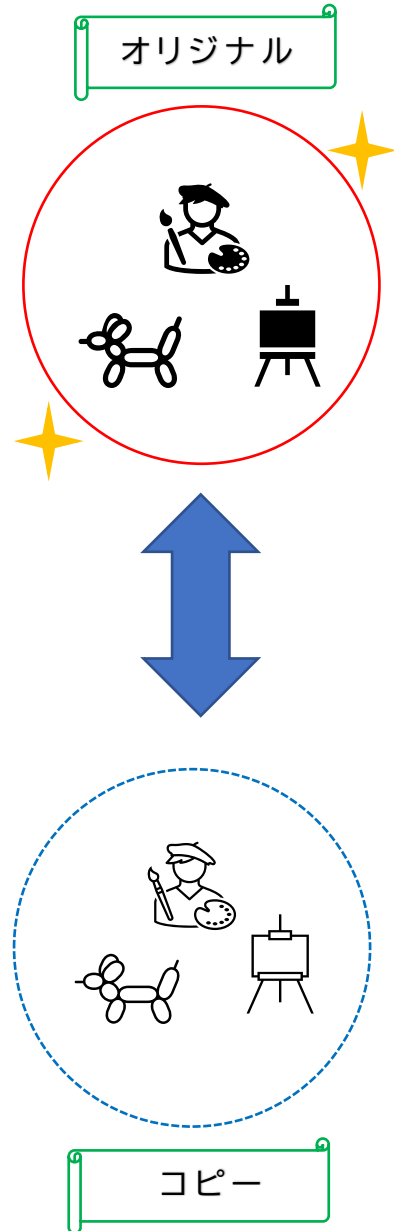
★芸術論

— 言語の世界のへ向こう側 —

芸術論は評論の重要テーマの一つです。芸術への関心の度合いにもよりますが、読み取りに苦勞する人が多いようです。その原因の一つとして、「言語論」との関係を理解していないから、というものが考えられます。芸術論は言語論と深い関わりがあるのです。言語論の学習が済んでいない人は、左上のQRコードから、言語論をダウンロードして勉強してみてください。

みなさんにとって芸術とは何でしょう？ 一体何が芸術を芸術たらしめているのでしょうか？ 少し考えてみましょう。

まず、これは芸術だと思えるものは、何だか**アウラ**(**オーラ**)がありますよね。美術作品や音楽はもちろん、人ですら**オーラ**をまとっている人もいるくらいです。こうした「ホンモノ」感は**オリジナル**だからこそ出るのであり、ただ何かを真似た**コピー**では出せない味なのです。



◎ 評論 キーワード

- ・ **アウラ**(**オーラ**)…人物から出る独特な雰囲気。
- ・ **オリジナル**…独創的であること。
- ・ **コピー**…模倣・ものまね。

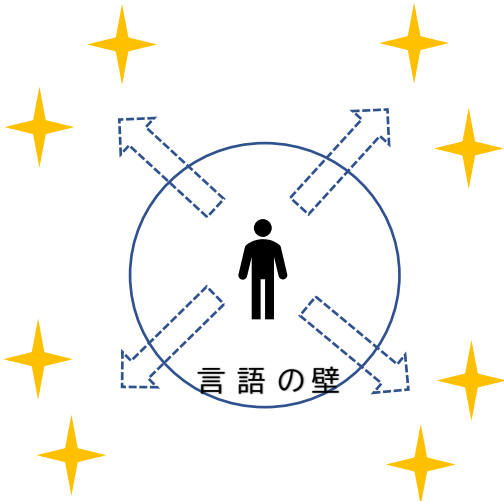
ではこうした「ホンモノ」感は、一体どこから来るのでしょうか？ここで、言語との関わりの方から考えたいと思います。

言語論でも学んだように、言語は分節化作用によって秩序ある世界を創り上げています。私たちは言語が創った世界の中に生きており、言語の壁に守られていると言っても良いでしょう。

しかし、その世界は**世俗的**で、**作為**に満ちた世界ともいえます。芸術の「美」は言語が創る世俗的な世界の「向こう側」にあるのです。「向こう側」の世界は混沌であり、原始的な世界です。芸術家は「向こう側」の「美」をなんとかこの世界に**具現化**しようとするのです。

えもいわれぬ感動、つまり言葉に出来ない感動は「美」に触れた瞬間にやってくる。この「言葉に出来ない」という点も、「向こう側」の性質を良く表していますよね。

〈向こう側〉

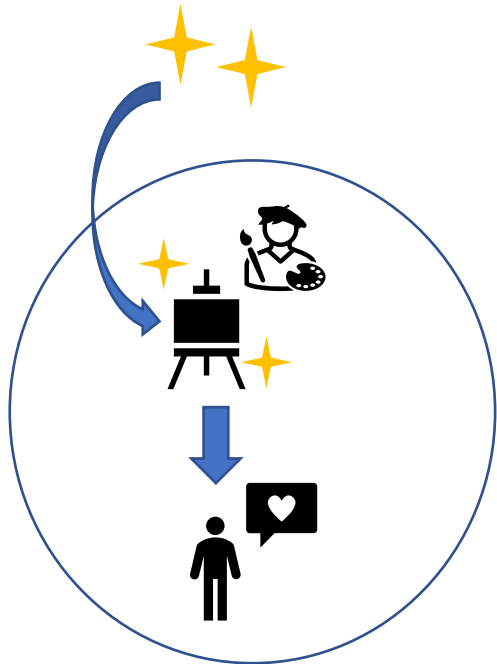


◎ 評論 キーワード

- ・ 世俗的…人々の生きる世間。対義語は「神聖」。
- ・ 作為…手を加えること。人工。
- ・ 具現化…考えや理想などを形にすること。

当然、芸術家達の間でも、「何を芸術とするか」は様々でした。見たまま・ありのままを写しとる**写実主義**（リアリズム）や、恋愛や情緒を重んじる**ロマン主義**（ロマンティシズム）を始め、様々な主義主張があります。芸術家は、それぞれが思い浮かべた**イメージ**（表象）をなんとか形にしようとしています。それは美術や音楽かもしれないし、**オブジェ**のようなものかもしれません。こうした多様な表現**形式**によって、芸術は人々を感動させることが出来るのです。

心がゾーンとする感動があれば、それが芸術に触れた体験なのでしょう。芸術には**カタルシス**があります。それは言語化できない（向こう側）を体験することなのかもしれません。



・ **写実主義**（リアリズム）…見たまま・ありのままを客観的に写し取る芸術表現のあり方。

・ **ロマン主義**（ロマンティシズム）…恋愛や情緒を重んじる芸術表現のあり方。

・ **イメージ**（表象）…心の中に浮かぶ像。

・ **オブジェ**…普段の意味と違う意味を与えられた物。

・ **形式**…事物となって現れている形。うわべ。対義語は「内容」

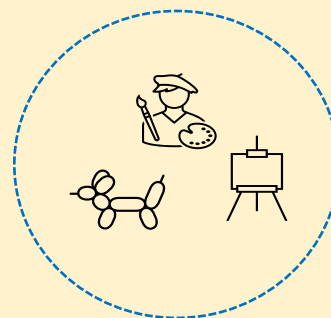
「実質」。

・ **カタルシス**…精神の浄化作用。

◎ 評論 キーワード

●オリジナルにはオーラがある！

オリジナル



コピー

●言語の壁のへ向こう側へ「美」がある！

<向こう側>

